
男山（石清水八幡宮） 自然観察地図の作製と発刊

自然観察指導員京都連絡会
代表 西川 忠 樹

自然観察指導員京都連絡会（以後、単に「会」などと記します）に入会いたしました。ちょうど二年になります。そしてこの間、自分なりに会のシステム、具体的には活動方針、運営、実務など観察しておりました。その結果、この会はその性格上やむを得ぬことではありますが、公開観察会中心の活動方針をたて、それに基づいた運営を行っているように思われたのであります。確かに公開観察会の意義は大きいものと思います。公開観察会こそが多くの人々に自然とふれあう場を提供しうるものであり、また、我々会員が新しい人々に出会う場でもあり、更にお互いが啓発しあう絶好の機会でもあると思います。そしてそのためには会員が公開観察会にスタッフとして参加する際、当然その都度その都度全精力を傾けるべきものと思います。しかし、会全体として、或は、各会員の集合体としての会を考える場合、果たして公開観察会のみ全精力を傾け、これのみに終始して良いものでありましょうか。当方は次のように考えました。

公開観察会は日程に束縛される。→ 人によっては殆ど参加できないような場合もある。

公開観察会は「人前で話す」という印象が強い。→ 人によっては苦手な場合があり、その精神的重圧が参加を困難にする。

公開観察会は先の二つの事柄により参加する会員が限られてくる。→ 一部の会員に負担がかかる。また逆に、それ以外の会員から見ると参加しづらい環境を形作る。

このような悪循環が芽生え始めていると言っても過言ではありません。事実、現在会では公開観察会に参加できる人とどうしても参加できない人とに分かれてしまいがちです。この悪循環を緩和するには一体どうすればよいのでしょうか。

一つは、現在毎月催されている定例観察会と文字通り臨時に開かれている臨時観察会とによって会員間の親睦を深めるということでしょう。しかし、これは飽くまで会内部の活動であるため、対外活動である公開観察会の代用にはなり得ません。会内部の活動も対外活動も、いずれが勝ちすぎてもいけないのであります。では、もっと公開観察会に参加して下さいと頼めばよいのでは。これは先の悪循環を助長するだけで、無理というものであります。また、この会の性格上、義務化することなどもってのほかであります。そこで次のようなことを考えました。

1. 公開観察会中心の今までの方針を見直す。
2. 多くの会員が気軽に参加できる別の対外活動を展開する。

ということであります。そしてこの二つの考えを推し進めましたところ、ガイドブック作製という活動を思い出しました。これは数年前、京都府の委託を受け会員の執筆により作成した「自然観察路ガイドブックーふるさとの自然」の続編刊行のことです。しかし、いきなり分厚いガイドブックを作るとなると、それは公開観察会の二の舞を演ずることとなります。もう少し気楽に、恰もパンフレットを作るような感覚で取り組んでいってはどうか、と思うのであります。その最初の一步として男山を選んでみました。男山はこの会も歩き慣れた山でもあり、京都府歴史的な自然環境保全地域の第1号として指定されている山であり、また、何よりも行きやすい所でもあることから最適ではなかろうか、と判断したのであります。

さて、具体的にはどのような活動なのかと申しますと、作るものが「パンフレット」ですから、それは「見て楽しいもの」「興味をひくもの」であればいいと思います。各自が思い付いたこと、気付いたこと、その他どんなことでも意見を持ち寄ればいいのです。何も専門的な知見ばかりでなく、例えば「ここから見た景色は美しい」「この辺はお化けが出そう」「この道はアベックが多い」なども勿論大歓迎です。ある程度集まったところでそれらを地図上に落としこみ、第1版としておもてにだすのであります。今のところは、視覚的に捉えやすい地図をまず作ってもらい、その1枚の地図に動物、菌類、植物、鉱物、その他などを分野によって色を変え、且つ、簡単な表現で示しておき、別の頁に多少詳しい説明を記す、という案と、同じ地図何枚かを作り、それぞれに動物、菌類、植物、鉱物、その他などを割り振って、色分けの手間と煩雑さをなくすという案とがでております。どちらも本質的には違いはありません。そして、第1版を刊行した次の年度から、この男山を手本にし、他の地域でも同様に行動を起こすのであります。もちろん男山に関しても常に改良を重ね、第二版、第三版を作ってゆきます。

こうして数年後にはいくつかの地域の「パンフレット」が出来上がっているはずです。それをまとめて1冊のガイドブックにすればいいのです。

このように書くだけなら極めて簡単、数年後にはさぞかし立派な本が出来上がる仕組みのように思われますが、実際はとても地道な作業の連続です。今までの公開観察会のように人前で話すこともなく、また毎月々々雨の日も風の日もひたすら同じ山に登ることの繰り返しです。更に第1版が出来たらそれで終わりというものでもなく、改良を重ね常に良いものを、常に新しい情報を載せるべく努力せねばなりません。

しかしながらこうしてできあがった「パンフレット」ないし「ガイドブック」は少し大袈裟にいいますと我々の活動記録としての後の世に残ります。良かれ悪しかれ、それが後の人々に情報と影響を残すこととなるでしょう。その時初めて我々の活動が評価あるいは批判されることとなります。今のままでは少なくとも批判されることもないかわりに評価されることも残せません。確かに評価されたからどうだ、という問題ではありませんが、何らかの指針も得られぬまま活動を続けていける人がいったいこの世にどれくらいいることでしょうか。

話が多少ややこしくなりましたが、要するに今よりもっと多くの人の自由な参加を呼び掛けるには、この「パンフレット」こそが適当と思われました。以上のようなわけで「男山へのおさそい」なる表題の文章を記すにいたったのであります。

最後になりましたが、このような活動を行うにあたってのさらに具体的かつ実質的な内容を記しておきたいものと思います。

まずは、「意見を持ち寄ればいい」といってもどんなふうになればいいのか。人によっては電話で済ませることもあるでしょうし、長い文をしたためることもあるでしょう。また、いくら興味深い情報でも、いつ、どこで、どのような場合に集められたものなのかが分からなければ全く意味をなしえません。そこで、必要最小限の事柄はどうしても記してもらねばならないと考えました。ここでは知識の共有こそが、「パンフレット」作りの第1歩とみなした訳であります。そのために次のような用紙を作りました。要は先程のいつ、どこで、どのような場合にか、を他人にも判るように書き留めるだけのものです。各自が男山を歩きながら、見たこと、気付いたこと、思ったこと、その他何でも手帳や地図上に書き留めることと思います。そして、その1件1件を1枚1枚に写して頂ければいいのであります。

しかし、ここで大事なことは他人にも判る、ということですから、お互いの約

1. 利用する地図を同じもの（1/2,500）とします。
2. その地図に共通の枠組（東西4×南北4の16面に分割、各面500m四方）を設定します。
3. 各枠組を細分化（1面を東西5×南北5の25分割、各区面100m四方）します。

この1年間に予定されております「男山」関連の日程を書き記しておきます。基本的には毎月第1日曜日京阪八幡市駅改札朝10時集合であります。また、下記の日程以外にも積極的に行動して頂けるとなおさら良いと思われま

◎コース名は、その都度どうするか決めることとします。 ◎情報を採集した年月日です。 ◎左から面番号、東西南北の番号

男山 19 年 月 日

◎コース名 () ◎コード名 (- -)

◎目印 (◎事象の目印など)

◎事象名 (◎主題であります)

◎内容

◎事象のある100m以内です

◎コース名は、その都度どうするか決めることとします。
 ◎情報を探索した年月日です。
 ◎左から面番号、東西、南北の番号

男山
 19 年 月 日

*コース名 () *コード名 (- -)

*目印 () ◎事象の目印など

*事象名 () ◎主題であります

*内容

*
◎事象のある
100m以内です

◎主題に対する詳しい内容を記して下さい。

100m

No. ◎ここは事務局用であります。 *記入者 ()

◎採集した人の署名を
お願ひします。

男山
 ・ 1991 年 / 2 月 23 日
 ・ コース名 (南彦道) ・ コード名 (⑪ - D - 4)
 ・ 目 印 (ヲ 垣)
 ・ 事象名 (ヲ 垣 の 模 様)
 ・ 内 容 1 番 級 原 則 1 建 物 の 品 目 等
 障 害 等 の 特 性 取 扱 上 の 注 意 事 項
 1 0 0 ㎡ 以 上 の 土 地 (権 限 産 生 契)
 此 例 情 報 収 入 時 点 1 0 0 ㎡ 以 上 と 判 断 区 画
 契 約 7 2 ㎡ 判 断 区 画 2 0 ㎡
 記 入 者 (用)

男山「自然観察マップ」作製のための調査

— 中間報告 —

岸 本 博 和

「森の新聞」前号と平成4年度総会において提案させて頂きました「自然観察マップ」作成のための調査も、3月1日に3回目をむかえました。幸いなことに、これまで多くの会員の皆さんのご参加ご協力を得てきております。

さて、今回は表題にも示しましたように、現時点での進行状況をごく簡単ではございますが、ご報告させて頂くことといたします。

総会で述べました予定のとおり、3月までの調査においてほぼ全コースを決定することができました。また、その際にコースの名前も決めました。但し、コース名は件の「パンフレット」にそのまま載るかどうかは現在のところ未定であります。と、申しますのも、我々がそのコースの名前を知らないだけで、実は地元で昔から使われている名称が存在する可能性も当然あるわけです。その際には勿論この昔ながらの名前を優先して載せるべきと思われます。しかし、現時点で名称の存在が明らかでないコースに関しては、とりあえず当会での共通の認識として仮の名前を定めたということであります。

それでは以下にコース名と簡単な道順を記します。

1. 大谷コース 常昌院－（大谷）－鳩ヶ峰
2. 大谷西尾根コース 常昌院－（大谷西尾根）－鳩ヶ峰
3. 大谷東尾根コース 墓地－（大谷東尾根）－鳩ヶ峰
4. ケーブル駅コース ケーブル八幡駅－遥拝碑－鳩ヶ峰
5. トンネル上コース 神応寺－ケーブルトンネル上－鳩ヶ峰
6. ケーブル下コース 神応寺－ケーブル下－男山リクリエーションセンター
7. 山上駅コース 神応寺－不動明王－ケーブル山上駅－本殿
8. 裏参道コース 高良神社－裏参道－本殿
9. 表参道コース 高良神社－表参道－本殿
10. 神原コース 神原－本殿
11. 石不動尊コース 神原－石不動尊－男山リクリエーションセンター

以上、11コースであります。

さらに簡略にするために、これらを終点別に分けますと、

- | | |
|--------------------------|------|
| 鳩ヶ峰： | 5コース |
| 男山リクリエーションセンター： | 2コース |
| 石清水八幡宮本殿： | 4コース |
| （鳩ヶ峰－男山リクリエーションセンター－本殿）： | 1コース |



ということになります。つまり、京阪八幡市駅を出発し、行きと帰りとは違う道を通り、再び八幡市駅に戻るとする場合の全ての方法は110通りであります。しかし、この中には例えば「表参道コース→本殿→裏参道コース」「裏参道コース→本殿→表参道コース」のような往復の順番が単に逆のものも含まれます。これらを同一の方法として考えるならば、全部で55通りとなります。

今回の調査を始めるまでは、11ものコースが存在するとは思いませんでした。これも自分一人で漫然と登っていたのでは判らなかったことと思います。このようにコースだけとってみてもこれだけ新たな発見があるのですから、今後、皆さんから寄せられる情報は様々な目から見た、様々な方面にわたるものであることと思われます。それを思うだけでも益々意欲がわいてくるのであります。

さて、今後の動きであります。4月以降はコースの書き込まれた地図を用いて、これまでと同様の調査を続けていくこととなります。また、できるだけ全11コースにおいて、月ごとの情報を得られるようにするため、参加人数の多い場合にはその場で2～3班に分け、各班がその日に3～4コース歩くことにします。すると、1日で6～12コース分の情報が得られることとなります。もっともこれから梅雨の時季やお盆などを迎えますが、その際には参加者が少数となることも予想されます。勿論、そのような時には無理をせずに、1日で3～4コースだけ歩くことになると思います。その結果、月によっては手薄になる場合もあります。しかし、別の日に暇ができ、また気が向いたならば、各自がふらりと出向けばいいでしょう。このような「ゲリラ」的なやり方もおもしろいと思います。但し、くれぐれも怪我や危険のないようにして下さい。

男山「自然観察マップ」作製のための調査

— 中間報告 2 —

平成4年度総会と「森の新聞」46,47号において提案・報告させて頂きました「自然観察マップ」作製のための調査も、回を重ね7月5日には10回目（公開観察会とその下見も含みます）を迎えました。また、5月9日の夜には男山にて会合をもち、今後の方針について話し合いました。

さて、今回は5月9日の会合にて話題に取り上げられました事柄等について、ごく簡単ではございますが、ご報告させて頂くことといたします。

それは「自然観察マップ」に先立ち、「自然観察ガイドブック」を作製するという件、並びにそれに伴うコースの絞り込みについてであります。

「自然観察ガイドブック」は表紙込みで32頁、縦横それぞれ17～18cm四方形の簡単なものを考えており、来年の秋ごろには出版したいものと思っています。従いまして「森の新聞」47号でご報告いたしました合計11コースのうち、取り敢えず5コースに集中して情報集めに取り掛かることといたしました。その上でガイドブックの構成について会員の方より募りましたところ、10ほどの案が集まりました。それらを何に主眼をおくかによってわけましたところ、分野別を中心にするもの1案、コース別を中心にするもの3案、季節別を中心にするもの2案、とそれぞれの折衷案が4案などであることが判りました。

また、これらの案を見ているといろいろな工夫が盛り込まれていることにも気付きました。例えば、現地への交通案内を載せる表紙と裏表紙とを一続きの絵や写真にする、ロマン・詩情のあふれるものにする、マイマイなどの生物のまぐわい方を載せる、表紙に副題や連番をいれる、表紙に色分けした目次をつける、などであります。これらは骨組みがどのようなものになるにせよ、何らかの形で「ガイドブック」作製の参考にさせて頂きたいものと思います。

これだけ多くのご意見が集められたのも、ひとえに様々なタイプの人々が取り組んでこられた事による恩恵であると言えるでしょう。何よりも当方自身この活動に携わってきて、多くの人の意外な面を発見できたことに嬉しさを感じ、活動意欲も沸き立ってきたといえます。「自然観察ガイドブック」が完成した後もこのような調査活動は引き続き行いたいものと思います。

男山「自然観察マップ」作製のための スタッフ大募集

去る1月、これまで続けてきました男山「自然観察マップ」作製のための調査も丸1年という区切りを迎えました。この間、実に様々な人の参加と協力が得られました。また、企画の甘さが露呈し、その結果当初に考えておりました男山「自然観察マップ」の出来上りの姿というものも随分と変わることとなりそうです。

このことに関してもう少し詳しく述べますと、まずはもう1度原点に立ち返るべきとの軌道修正の必要性が生じてきた事であります。この1年間幾つかの案が出せれておりましたが、あれもこれもと欲張って企画いたしました結果、收拾をつけにくい状態となってしまったことに因ります。次に、当会は「TaKaRa ハーモニストファンド」に対し、男山「自然観察マップ」作製のための活動助成を申請いたしておりましたが、2年間で仕上げるとの条件で助成を受けられることとなったことであります。この様なことから、この秋には出来上がるであろうと考えられていた男山「自然観察マップ」ですが、あともう1年間更に調査活動が続けるべきではないかと考えた訳であります。従いまして、これまで1年間の作業はいわば予備調査的な役割という位置付けになります。そして、この間に皆さんから寄せれた膨大な情報を元に今後は討議を重ね、取捨選択の上男山の地図上に落とし込んでゆくことになります。その際、必要とあらば現地に何度でも足を運び、また、お互い納得のゆくまで話し合う場を持つことにもなることでしょう。

さて今後1年間に待っているいろんな作業についてであります。今思い付くだけでも、例えば地図に落とし込む情報の選択、落とし込み作業、ワープロ入力や切り張りのような作業、生物や風景のスケッチなどによる描写、校正、などがございます。その他これから討議を重ねるごとに、まだまだ為さねばならぬ事柄が生ずることと思われます。このような作業は地味なものかも知れませんが、やりがいのあるものと思われます。

そこで表題に掲げておりますように、これらの実務を行うスタッフをこの場で募集いたしたいものと思います。この1年間調査に参加された方は勿論のこと、編集作業、入力作業、スケッチ、議論、などをしてみようと思われる方、男山に対する思い入れの強い方、今後1年余りの間、スタッフになってみては如何でありますでしょうか。

以下に現在予定されている日取りを記しておきます。

なお、集合場所、集合時間はこれまで同様に京阪八幡市駅改札口、午前10時といたします。

6月6日(日)
7月4日(日)
8月1日(日)
9月5日(日)

スタッフになってみようと思われる方、是非ご参加下さい。

男山「自然観察マップ」作製のための 打合せ大会

岸 本 博 和

去る8月1日午後1時から5時、八幡市男山研修センターにおきまして、今後のスケジュール、スタッフ等について話し合いましたので、ここに報告させていただきます。

スタッフは現時点では当日の出席者である石崎(実)、石橋(明)、久貝、熊田、権藤、常住、西川(忠)、西川(美)の各氏と、予め連絡を受けていた小吹、島田、留岡、中川(真)、村山(久)、山口の各氏であります。

スケジュールは以下のとおりです。

5年12月5日	第1次原稿・スケッチ等締切
6年4月	第2次原稿・スケッチ等締切
6年8月	最終原稿・スケッチ等締切(厳守しましょう)
6年11月	ついに完成! か?

次に地図の概略を示します。サイズはA1で表裏に印刷します。まだまだ内容の具体的な検討などはなされてはおりませんが、お互いに思う存分意見を出し合い最終原稿にしたいと思います。そのために各担当者は責任をもってスケッチや原稿に目を通し、全体討議の場に持ち込んで頂きたいものと思います。全体討議に持ち込まれた原稿等は、その場で辛辣な批評を浴びせられるかも知れませんが、そのようなことにめげている暇はございません。すぐに次の締切が迫ります。各担当者はスケッチや原稿の作者に発破をかけて頂きたいものと思います。また、各作者は意見されたからといって中途半端なまま投げ出すようなことはせず、自分の主張を続けて下さい。各担当者と各作者との納得のいく作品に生まれ変わったときに再び全体討議に持ち込んで下さい。その結果、再度文句がつけられるかも知れませんが、後はこれの繰り返しであります。こういう状態も刺激があつていいでしょう。

(表)

(裏)

絵、写真、説明文などをまわりに配す	表紙 観察会 風景の 写真 (未定)	男 山 へ の い ざ な い	裏表紙 男 山 鳥瞰図 (島田)
全体地図(イラスト) 1/2,000	テーマ別に絵、写真、説明文など		
コースに沿って植物、きのこ、昆虫、などを書き込む	担当者 木の花(石橋♂), 木の実(石橋♂), 草の花(石橋♀), 新芽(権藤), シダ(久貝), 紅葉と黄葉(常住), クモ(西川♂) 野鳥(熊田), 昆虫など(岸本), きのこと(西川♀), その他(未定)		
スケッチなど主にして見て楽しむものを目指す	だいたいの季節にそって配置する		
	男 山 の 地 形 ・ 地 質 (留岡)	男 山 の 森	

男山「自然観察マップ」作製のための打合せ大会 2 回 目

去る12月5日午後1時半から4時、男山におきまして、今後の具体的な分担と日程について話し合いましたので、ここに報告させていただきます。

担当者は、石橋♂、石橋♀、小吹、久貝、熊田、島田、下河内、常住、留岡、中川(真)、西川♂、西川♀(五十音順、敬称略)であります。

日程は以下のとおり、

- | | |
|--------|-------------------------|
| 6年3月中旬 | イラスト地図の完成 |
| 6年3月下旬 | 最終締切、地図上への落とし込み、レイアウト決定 |
| 6年6月初旬 | 出稿 |
| 6年7月 | 校正 |
| 6年8月 | 完成 |

勿論、この間に何度か打合せを行うことになるでしょう。

次に現時点での地図の概略を示します。ほとんど前回から変更はありません。各担当者は責任を以ってスケッチや原稿に目を通し、全体討議の場に持ち込んで頂くということを再確認いたしました。前回と同じ様な図を付しておきました。若干の変更などもございます。

細密画、写真、説明文をまわりに
配す

全体地図(イラスト)

1/2,000

地図上に色分けした点
でおとし込む

全100件程度

(内、絵など30枚)

植物60(内18)=緑

動物25(内8)=赤

菌20(内6)=黄

ほかX(内X)=白※

※石碑、道標などコース

の目印となるもの

(小吹)

他の担当は右同

表紙	男山の	裏表紙
当会の	いざない	男山
観察会	(西川)	鳥瞰図
風景		(島田)
(西川)		

テーマ別に水彩画、色鉛筆画など

担当者

植物全般(石橋♂、石橋♀)

シダ(久貝)

紅葉と黄葉(常住、下河内)

動物全般

クモ(西川♂、中川)

昆虫ほか(岸本、中川)

野鳥(熊田、中川)

菌(西川♀)

だいたいの季節にそって配置する

男山の	男山の森
地形・地質	(石清水八幡宮
(留岡)	権禰宜稲垣氏)

(図)



▲ 写真 1



▲ 写真 2



▲ 写真 3



▲ 写真 4



▲ 写真 5



▲ 写真 6